

4 月 3 日掲載

第 21 回 <肺機能検査>

肺活量、一秒率が一般的

呼吸器の病気の診断に役立つ「肺機能検査」には様々な種類がありますが、一般的なのは肺活量や一秒率を調べるものです。以前は肺活量の測定に、水の中に浮かんだ容器に息を吹き込み、その浮き具合によって肺活量を割り出していました。しかし水の抵抗などで正確に測定できないため、今は筒内を通過する息をセンサーで計測する方法が主流です。肺活量は体格や年齢によっても異なるため、性別、身長、年齢から計算式を用いて数値を予測し、実際に測定した数値を百分率で表します。この値が 80% 以下の場合を「拘束性換気障害」といいます。胸水貯留、胸膜肥厚などで胸部の空間が狭くなり肺が広がるのを妨害しているか、間質性肺炎、肺がんなどで肺自体が硬くなっている状態が疑われます。

一秒率は、大きく吸って勢いよく吐き、一秒間に肺活量の何%を吐き出せるかの検査で、70% 以下だと閉塞性換気障害。気道が狭くなっている状態を示し、肺気腫、気管支ぜんそくなどが疑われます。また、肺活量、一秒率ともに低い値を示すと混合性換気障害といわれ、気管支ぜんそくに間質性肺炎を併発している状態などが疑われます。

4 月 10 日掲載

第 22 回 <ヘリコバクターピロリ=上=>

内視鏡で迅速判定試験も

胃の粘膜に生息する細菌「ヘリコバクターピロリ」は、1983 年にオーストラリアのロビン・ウォレンとバリー・マーシャルによって発見され、その後の研究で胃や十二指腸の潰瘍、萎縮性胃炎、胃がんなどの発生に深くかかわっていることが明らかになりました。鞭毛を使って活発に動き、胃粘膜にいろいろな障害を与えます。経口感染すると考えられていて、衛生環境がよくない発展途上国だと感染率が高くなります。日本では、良好な衛生環境の中で育った若年者の感染率は低く、高齢者は高くなっています。ピロリ菌感染を調べる方法は、内視鏡(胃カメラ)で組織の一部を切り取り調べる検査と、内視鏡を使わない検査があります。

内視鏡を使う検査には①採取した組織を染色して顕微鏡で観察する「鏡検法」②組織を培養してピロリ菌が増えるかどうか調べる「培養法」③採取した組織を検査薬内に入れ、検査薬の色の変化を確認する「迅速ウレアーゼ試験」の三種類があります。このうち迅速ウレアーゼ試験は、通常 20 分ほどで判定できるうえ、従来の検査と匹敵する正確さが長所です。今回は、内視鏡を使わない検査について説明します。



中日新聞を読んで！

4 月 20 日(月)の中日新聞に、医師であり作家の篠田達明氏の「中日新聞を読んで」が掲載された。毎週金曜日に当会会員が執筆している「検査の話」に注目しているということである。この中で「昔の医師は患者をつぶさに観察し診察をした。現在も余裕のある診察をしたいが、歴代内閣の給医療費抑制政策のもとでは夢物語でしかない」そのためもあり「頼りになるのが臨床検査である」としている。以下、ヘリコバクターピロリについて記述されている。

この「検査の話」の企画は、1 年間<55 回>の予定であるが、氏も述べているように国民への検査の説明・解説は勿論、氏が述べている医療政策への提言などへの職能としての責任要素も含んでいる。今後も国民へは検査の説明を基本として、医療行政などの啓発を行い、国民の臨床検査に対する理解と支持を求めることが必要であろう。

第 9 回 CRC と臨床試験のあり方を考える会議 2009 in 横浜

日 時：平成 21 年 9 月 12 日(土)・13 日(日)

会 場：パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市西区みなとみらい)

医薬品が患者の治療に真に役立つためには、その医薬品の有効性と安全性が確立されている必要がある。医薬品開発には創薬ステージと育薬ステージがあり、創薬ステージは基礎研究と臨床試験(以後治験と言う)に分けられ、育薬ステージは市販後の臨床試験が該当する。新薬開発には、15~20 年の歳月を要し、新薬の有効性と安全性を確認する作業の中で最も重要な作業がこの治験である。従来より治験は行われていたが、医師と患者と製薬会社の間の不透明な関係が治験のイメージを悪くし、また一部に不幸な結果をもたらす結果となっている。問題の発生を未然に防止し適切に対処するために、CRC (Clinical Research Coordinator: 治験コーディネーター) の関与が重要であり、厚生労働省、文部科学省、(社)日本看護協会、(社)日本病院薬剤師会、(社)日本臨床衛生検査技師会などの各団体で CRC 養成研修が行われている。この会議は、各医療機関ならびに治験施設支援機関の CRC がそれぞれの立場で現状を話し合い、治験に関わる者が治験実施の情報交換をするため、2001 年に発足した「CRC 連絡協議会」(主催 7 団体の世話人で構成)が中心になり開催するもので、今回は 4 年ぶりに当会が担当する。

詳細は、ホームページ (<http://www.mtoyouto.jp/crc9/>) を参照のこと。

